

阪神高速事業アドバイザー会議 〔第11回〕

「2020年度決算報告」

2021年11月2日
阪神高速道路株式会社

1. 2020年度決算概要	3
2. 中期経営計画2020の達成状況	10
(阪神高速グループCSRレポート2021より)		

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **1,963億円**(前年同期比▲1,738億円)、
営業利益 **7億円**(前年同期比▲8億円)、経常利益 **11億円**(前年同期比▲10億円)、
親会社株主に帰属する当期純利益は **73百万円**(前年同期比▲12億円)となりました。
事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

高速道路事業

- ◆ **料金収入**は1,601億円(前年同期比10.1%減)
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により
前期を下回りました。
- ◆ **道路資産完成高**は225億円(前年同期比87.6%減)
※前期は6号大和川線(鉄砲～三宅西)開通の影響等
により、多額の完成高が計上されていたため、
当期は大幅に減少しております。
- ◆ **道路資産賃借料**は1,200億円(前年同期比12.7%減)
※料金収入の減少に伴い、高速道路機構との協定に基づく
計画額1,390億円から189億円減額されております。
- ◆ **管理費用**は412億円(前年同期比1.3%増)
- ◆ この結果、
営業収益は1,832億円(前年同期比49.0%減)
営業費用は1,838億円(前年同期比48.8%減)
営業損失は6億円(前年同期は営業利益4億円)
となりました。

受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の
事業を受託したことにより、
営業収益は75億円(前年同期比30.8%増)
営業費用は75億円(前年同期比33.8%増)
- ◆ この結果、**営業利益**は35百万円
(前年同期比77.4%減)となりました。

その他の事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、
事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、
営業収益は57億円(前年同期比15.1%増)
営業費用は44億円(前年同期比10.1%増)
- ◆ この結果、**営業利益**は12億円
(前年同期比36.7%増)となりました。

1. 2020年度決算概要

高速道路事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

主な増減内容

区 分		2021年3月期	2020年3月期	増減
営業収益	料金収入	1,601	1,781	▲ 179
	道路資産完成高 ^(注)	225	1,808	▲ 1,583
	その他売上	5	6	▲ 0
		1,832	3,597	▲ 1,764
営業費用	道路資産賃借料	1,200	1,375	▲ 174
	道路資産完成原価 ^(注)	225	1,808	▲ 1,583
	管理費用	412	407	+5
		1,838	3,592	▲ 1,753
高速道路事業 営業利益		▲ 6	4	▲ 10

●営業収益

・通行台数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、前年同期比9.9%減の一日当たり約64.0万台

・料金収入は、前年同期比179億円減の1,601億円

・道路資産完成高は、前期に6号大和川線（鉄砲～三宅西）開通の影響等に伴い、多額の完成高が計上されていたこと等により、前年同期比1,583億円減の225億円

●営業費用

・道路資産賃借料は、協定に基づく減算(※)により前年同期比174億円減の1,200億円

※料金収入の実績が計画収入の一定割合を超えて変動した際には、高速道路機構・会社間の協定に基づき、一定割合を超える部分については会社から高速道路機構に支払う道路資産賃借料が加減算されることとなっています。

・管理費用は、前年同期比5億円増の412億円

(注)道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

関連事業

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		2021年3月期	2020年3月期	増減
受託事業	営業収益	75	57	+17
	営業費用	75	56	+19
	営業利益	0	1	▲ 1
その他の事業	営業収益	57	50	+7
	営業費用	44	40	+4
	営業利益	12	9	+3
関連事業 営業利益		13	11	+2

主な増減内容

●受託事業

大阪市道高速道路淀川左岸線に係る工事出来高の増等により、営業収益は前年同期比17億円増の75億円、営業費用は前年同期比19億円増の75億円となり、営業利益は35百万円（前年同期比1億円の減）

●その他の事業

休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業、事業者支援コンサルティング事業等を展開したことにより、営業収益は前年同期比7億円増の57億円、営業費用は前年同期比4億円増の44億円となり、営業利益は12億円（前年同期比3億円の増）

当期連結財務諸表の概要

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区 分	2021年3月期	2020年3月期	増減
総資産	2,292	2,279	+13
流動資産	1,755	1,737	+18
(うち仕掛道路資産)	407	257	+150
固定資産	536	541	▲ 4
総負債	1,749	1,743	+6
流動負債	450	691	▲ 241
固定負債	1,299	1,051	+247
純資産	543	536	+7
株主資本	563	562	+0
資本金	100	100	-
資本剰余金	105	105	-
利益剰余金	357	357	+0
その他の包括利益累計額	▲ 20	▲ 26	+6

区 分	2021年3月期	2020年3月期	増減
営業収益	1,963	3,702	▲ 1,738
営業費用	1,956	3,686	▲ 1,730
営業利益	7	15	▲ 8
営業外収益	4	5	▲ 1
営業外費用	0	0	+0
経常利益	11	21	▲ 10
特別利益	0	0	▲ 0
特別損失	2	1	+0
税金等調整前当期純利益	8	19	▲ 11
法人税等	7	6	+1
親会社株主に帰属する 当期純利益	0	13	▲ 12

〔参考〕 阪神高速の交通量・料金収入の状況【2021年度上期】

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
交通量(台/日) 〔前々年同期比〕	657,342 〔89.7%〕	589,383 〔84.4%〕	680,434 〔102.1%〕	704,093 〔94.4%〕	664,632 〔89.8%〕	686,725 〔93.2%〕	663,587 〔92.1%〕
料金収入【税抜】 (百万円) 〔前々年同期比〕	13,495 〔88.9%〕	12,547 〔83.5%〕	13,962 〔102.3%〕	14,951 〔94.4%〕	14,136 〔89.1%〕	14,113 〔93.2%〕	83,204 〔91.7%〕
ETC利用率	96.1%	96.0%	96.1%	95.9%	95.9%	96.1%	—

〔新型コロナウイルス感染症による影響〕

- ・緊急事態宣言が発令された期間は、新型コロナウイルス感染症による影響を強く受け、4月、5月、8月は対前々年で1割強の減少、9月は1割弱の減少にとどまった。
- ・まん延防止等重点措置期間であった7月は対前々年で1割弱の減少。

※6月は前々年の実績を上回っているが、これは前々年に開催されたG20大阪サミットによる大規模交通規制の影響によるもの。

【緊急事態宣言発令期間〔大阪〕】

今年度：4/25～6/20、8/2～9/30 ※6/21～8/1は別途まん延防止等重点措置期間

【特異事象】

2019年度

5月24日～6月3日 3号神戸線(湊川～京橋)でリニューアル工事により通行止め

6月27日～6月30日 G20 大阪サミットにより大規模交通規制

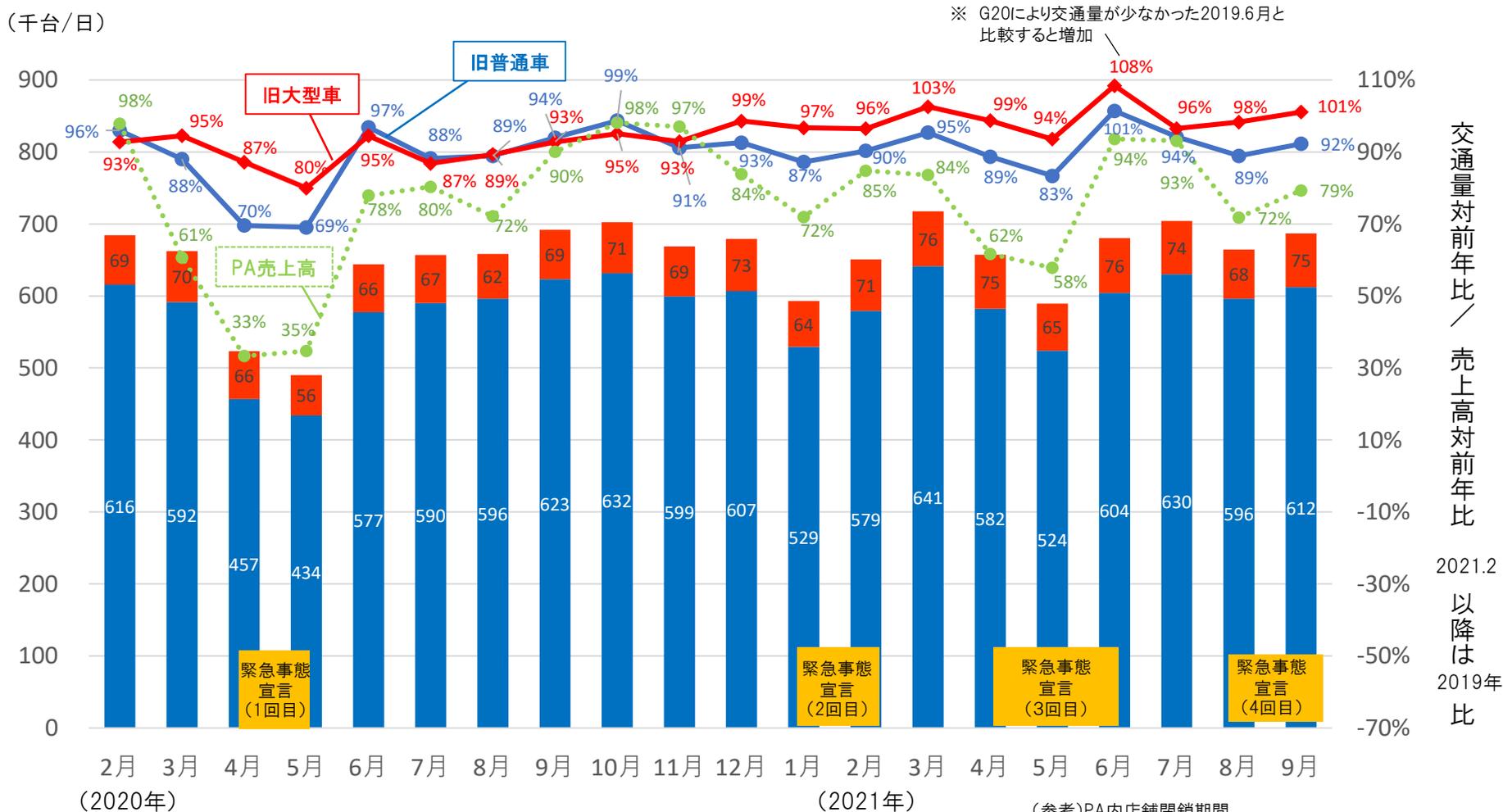
8月15日～8月16日 4号湾岸線・5号湾岸線の一部区間で台風10号の影響により一時通行止め

2021年度

8月9日 5号湾岸線の一部区間で台風9号の影響により一時通行止め

※2020年3月29日以降は、6号大和川線(7.7km)開通後の実績

- 2020年2月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により交通量やPA売上高が減少。
- 2回目以降の緊急事態宣言では、1回目ほどではないものの、交通量やPA売上高の減少が顕著。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた期間においても旧大型車は旧普通車より落ち込みが小さい。



交通量 凡例 ■ 旧普通車:軽・二輪、普通車、中型車 ■ 旧大型車:大型車、特大車

(参考)PA内店舗閉鎖期間
 泉大津PA(陸側) : 2020.3.10~2020.6.9
 中島PA : 2020.3.15~2020.4.30
 京橋PA : 2021.4.1~2021.5.16
 朝潮橋PA : 2021.9.1~

[参考]新型コロナウイルス感染症影響下の行動変容

時間帯別交通量について利用用途(バス・タクシー:旅客、トラック・ライトバン:物流、乗用車)に区分し、2019年同月比について分析した結果、以下の傾向がみられている。

- 24時間交通量について、旅客利用であるバス、タクシーが大幅に減少(2021年7月、2020年10月双方)
- 朝夕の時間帯の交通量について、乗用車は増加(2021年7月、2020年10月双方)(※①)。
物流利用であるトラック・ライトバンは、2020年10月は朝方のみ増加傾向であったが、2021年7月は夕方も増加(※②)。
全車種計でも朝夕の交通量が増加(2021年7月、2020年10月双方)。
- 新しい傾向として、トラック・ライトバンが24時間交通量で増加に転じ(※③)、乗用車、トラック・ライトバンの交通量が増加する時間帯が(早朝や宵の口まで)拡大(※④)。

車種別・朝夕交通量の変化(平日平均)

(参考)

24時間計	2019年7月	2021年7月	差	対2019年比 (2021年7月)	対2019年比 (2020年10月)
バス	10,344	4,849	▲5,495	▲53.1%	▲49.9%
タクシー	15,164	8,004	▲7,160	▲47.2%	▲38.7%
トラック・ライトバン	321,878	330,316	▲8,438	▲2.6%	▲2.1%
乗用車	378,191	376,057	▲2,134	▲0.6%	0.6%
【計】	725,577	719,226	▲6,351	▲0.9%	▲2.1%

7-9時台計	2019年7月	2021年7月	差	対2019年比 (2021年7月)	対2019年比 (2020年10月)
バス	2,371	1,124	▲1,248	▲52.6%	▲48.1%
タクシー	1,515	1,027	▲488	▲32.2%	▲38.2%
トラック・ライトバン	68,659	72,404	3,745	5.5%	2.2%
乗用車	76,253	79,207	2,954	3.9%	5.1%
【計】	148,799	153,762	4,963	3.3%	2.4%

17-18時台計	2019年7月	2021年7月	差	対2019年比 (2021年7月)	対2019年比 (2020年10月)
バス	1,424	658	-766	▲53.8%	▲49.5%
タクシー	1,185	773	-412	▲34.8%	▲37.7%
トラック・ライトバン	32,143	32,666	523	1.6%	2.9%
乗用車	54,013	56,087	2,073	3.8%	4.9%
【計】	88,765	90,183	1,418	1.6%	0.6%

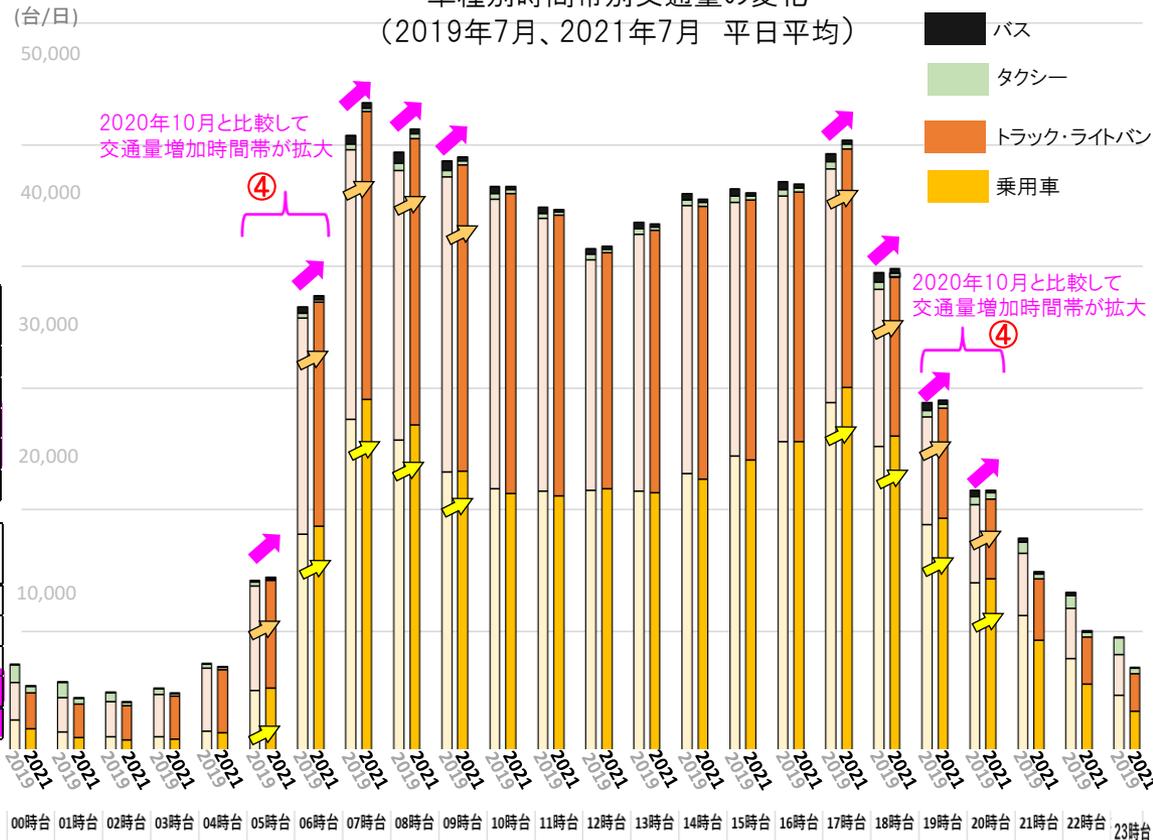
※集計データ: ETCデータ

※車種区分: 利用用途に応じて区分

バス
タクシー } 旅客
トラック・ライトバン } 物流
乗用車

車種別時間帯別交通量の変化

(2019年7月、2021年7月 平日平均)



3. 中期経営計画2020の達成状況

中期経営計画(2020~2022)における重要テーマ

阪神高速グループは、2020年4月に「中期経営計画(2020~2022)」を策定し、阪神高速グループビジョン2030「6つのありたい姿」ごとに、以下の施策に取り組んでいます。

重要テーマ1

最高の安全と安心を提供する阪神高速

- リニューアルプロジェクトの着実な推進
- 災害に強い阪神高速
- 交通安全対策の実施
- 良好な走行路面の確保
- 効率的な維持管理の実施

重要テーマ3

世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- 新たな技術開発、先進技術の適用
- 自動車技術の進歩にも適応した先進的な交通運用技術の開発
- 卓越した技術力・ノウハウの持続的なイノベーション

重要テーマ5

関西の発展に貢献し、地域・社会から愛される阪神高速

- 社会経済活動の活性化や都市構造の強靱化
- 環境経営の推進
- 社会貢献活動による地域・社会の発展

重要テーマ2

もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- ネットワーク整備や渋滞対策等による円滑な交通の実現
- より快適な走行を目指した情報提供の充実
- パーキングエリアの充実を始めとする新たなサービスの展開

重要テーマ4

お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

- 高速道路事業で培った技術・ノウハウを活用した事業展開
- 新たな事業等への積極的展開
- 国際事業の推進

重要テーマ6

経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

- お客さまをはじめとしたステークホルダーの声を反映した経営
- 信頼性の向上
- 働き方を変える取組みの推進

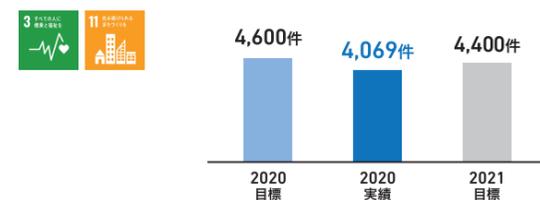
中期経営計画 2020～2022の達成状況

阪神高速グループは、2020年4月に「中期経営計画(2020～2022)」を策定しました。2020年度は、本計画の確実な達成に向けた初年度として、重要テーマに即した各施策を着実に推進しました。今後とも、経営環境の変化に対応し、お客さま満足の実現と関西のくらしや経済の発展に貢献すべく、さまざまな施策に取り組んでまいります。

重要テーマ 1

交通事故件数

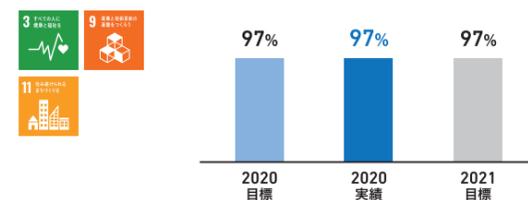
4,069件



快適走行路面率

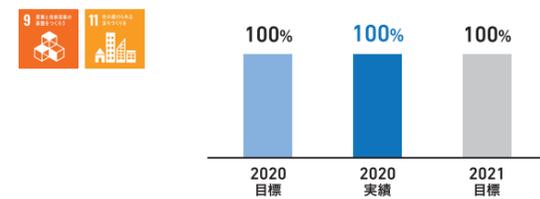
(良好な走行路面の割合) ※1

97%



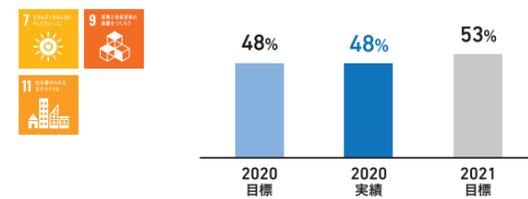
機能低下があり、対策を要する損傷の補修率 ※2

100%



道路照明LED化率 (本線照明)

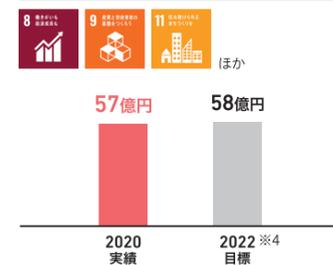
48%



重要テーマ 4

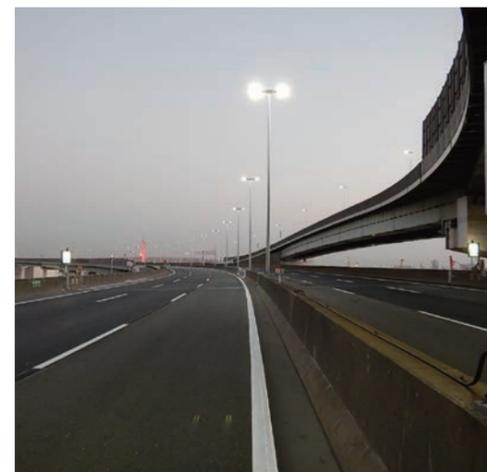
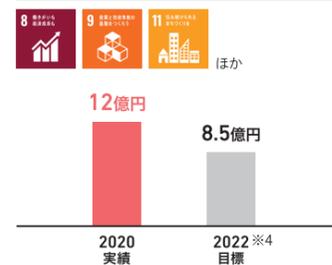
関連事業の 営業収益(連結)

57億円



関連事業の 営業利益(連結)

12億円

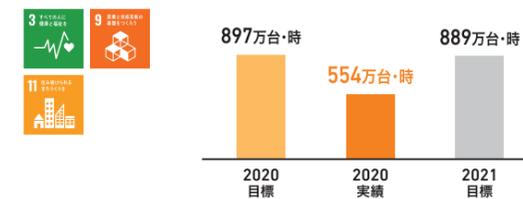


LED道路照明

重要テーマ 2

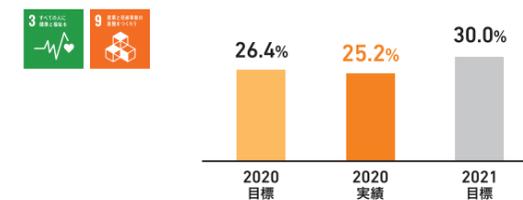
年間総渋滞損失時間 ※3

554万台・時



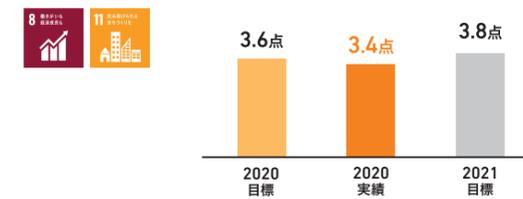
ETC2.0利用率

25.2%

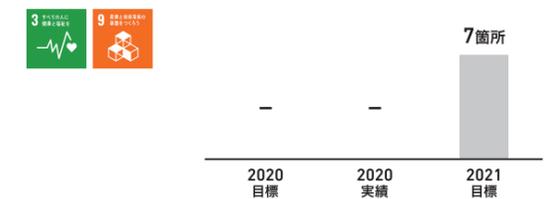


パーキングエリア数や 設置箇所

お客さま満足度(5点満点評価) 3.4点

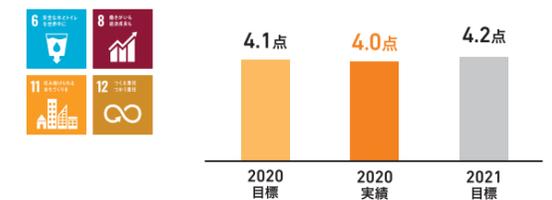


ETCお知らせアンテナ設置



各パーキングエリア の提供サービス

お客さま満足度(5点満点評価) 4.0点

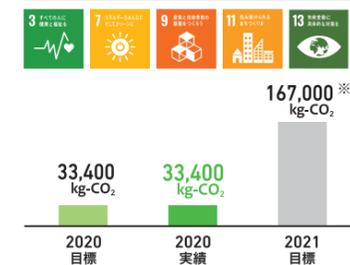


泉大津パーキングエリア(陸側)

重要テーマ 5

本線道路照明LED化によるCO₂排出の抑制量 ※5

33,400 kg-CO₂



特定調達物品に おけるグリーン調達率

98.1%



重要テーマ 6

お客さま満足度

5点満点評価

4.0点



※1 快適に走行できる舗装路面の単線延長+全車線延長

※3 渋滞が発生し走行速度が低下することによりお客さまが1年間に損失した時間の総和

※5 CO₂排出の抑制量は、関西電力株式会社2018年度調整後排出係数(0.334)に固定して算出

※2 損傷の補修率=(当該年度における修繕完了件数)/(当該年度計画上の修繕予定件数)(%)

※4 2022年度目標値

※6 2020年からの2カ年の施策による効果